

## 2020年度 第3四半期 決算説明会 質疑応答要約

### Q) 在宅勤務でのプリンター需要を踏まえて、2021年のP&S事業をどう見ているか。

A) ちょうど来年度の年計策定中であり、まだ確定ではないが、大きな傾向値としてご説明する。

インクジェットは、今年度は生産が出来ておらず、相当生産に苦しんでいる。来年度はQ1までにソーシャルディスタンスを確保しつつ生産能力を上げ、Q1末までには、フルキャパでの生産が出来るようにしたい。

レーザーは今年ピークになっており、来年もこの勢いは続くと思っている。売上は最大化したいと思っている。ただし、年間を通して販促費を一切掛けずに売上拡大するのは難しい。在庫の状況並びに競争環境次第では、機動的に販促費を使い、将来の消耗品に繋がるMIFを最大化するため売上を最大化していきたい。

### Q) レーザーのプリントボリュームについて、SMBとSOHOそれぞれのアップデートをしてほしい。

A) コロナ前比でのプリントボリューム情報をアップデートする。

SOHO：4月前半70%、7月末85%、9月末90%。SMB：4月前半60%、7月末80%、9月末85%。

直近ではSOHO、SMBともに9月末から大きく変わっていない。PVが上がっていかないところは懸念材料だと見ている。

### Q) P&S事業の来年度の消耗品について、堅調な推移は続くのか。

A) Q3は、昨年の消耗品の売上に対して約95%まで売上が戻っているが、100%には戻らない見立て。通常、消耗品は残念ながら、MIFの関係、サードパーティの浸食の関係で前年度を上回ることはほとんどない。そのため、来年度大きく落ちるという想定はしていないが、今年と同じか若干のプラスマイナスがあるくらいだと見立てている。

### Q) P&S事業のQ4の利益は減益の計画。減益になる理由を教えてください。

A) 今年度、コロナ影響は継続しているので経費が使えないという状況は、昨年度Q4から変わっていない。一方で、昨年度のQ4では消耗品駆け込み需要という特殊要因があった。その特殊要因を差し引くと、利益水準はほぼ前年同期並み。

### Q) 物流の状況についてうかがいたい。コンテナ不足や、輸送をしたが港湾で止められる場合もあるという話も聞く。ブラザーの状況を教えてください。

A) 工場で作ったものが、コンテナで出ていく際のコンテナ並びに船腹不足がグローバルで起きている。加えて、欧米中心としたインバランスが起きているのと、港湾の機能がコロナの影響で相当落ちており、空コンテナが生産地に戻ってきていない。併せて、船賃も2倍～3倍のレートに上がっている。コンテ

ナを集めて何とか回しており、現時点では業績に大きな影響が出るという状況ではない。

**Q) 産機について。受注の状況はどうか？**

A) 世界的な傾向だと思うのだが、産機関連は Q3 からかなり回復基調。特に中国の回復が著しい。この傾向は、今後もしばらく続くと見ている。

**Q) N&C の 2021 年は、どう見ればよいのか。**

A) 3 か月ごとに状況は変化しているので、絶えず店舗の稼働状況等をウォッチしている。第 3 波、第 4 波もあるが、現時点では来年度に、今年度と同じような大きな赤字になることは想定していない。店舗についても不採算店舗は閉鎖、あるいは減損という形で対応している。来年度、今年と同じような大きな赤字が起こるリスクを低く抑えるよう、今期出来ることはやっていく。今年と同じような大赤字の想定はしていない。

**Q) P&H 事業の家庭用ミシンの特需の今後の継続性について教えてほしい。**

A) 最初の頃は、マスク不足のために、マスクを手作りする需要だと見ていた。しかし、世の中に不織布マスクが出回ってもミシンの売れ行きが非常に良いので、これは巣ごもり需要によるものだととらえている。現時点でも、特に日本では、お客様にお待ちいただく状況が発生している。徐々には、需要はスローダウンしていくと思うが、少なくとも来年の Q1 もしくは Q2 の頭頃までは強い需要が続くと現時点では見ている。

**Q) 通常 Q4 は経費の負担が大きくなるが、今回の計画における、経費の織り込み方は例年に比べてどうか。**

A) 販管費については、コロナの影響もあり今期は通常年とは違って使えない状態であることから、Q4 の見通しにもそれほど大きな金額を織り込んではいない。

**Q) 配当についてうかがいたい。最終的な業績は今回公表した予想に対して乖離する可能性とこのことだが、上下に乖離するファクターは何で、その可能性はどのくらいあるのか。**

A) 金額的にどの程度なのかはわからない。Q4 は毎年ドミノなどの減損テストをやっている。現在ドミノは計画立案中。市況は、成長率も含めてコロナの影響で悪くなっているが、将来的に復活するかどうか、市場のデータでは、まだ十分にわからない。そのため、減損テストによる影響がどの程度出るのかは、現時点ではわからない。もし、減損になれば下振れることとなる。逆に、プリンティング他、今回の予想には好調さを反映しているが、それが上振れる可能性、下振れる可能性もある。カラオケについては、緊急事態宣言が 3 月上旬に終わる予定になっているが、変異種やワクチン接種率など含め、今後どうなるのかはわからず、カラオケ店舗への影響が懸念される。店舗について、今現在入れている減損が必要ないのか、更に追加だということも起こり得る。現時点でどの程度上振れるのか、下振れるのかは、見えていない状況。